

- 2 . G M Oステークホルダーに関する動向調査

Survey on G M O related Stake Holders

キーワード	遺伝子組換え技術、遺伝子組換え食品、ステークホルダー
Key Word	GM Technology, GM Food, Stake holder

1 . 調査の目的

平成21年度科学技術振興調整費「遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」に関連して、G M Oステークホルダーの意識と行動に関する資料収集業務を実施し、成果を取りまとめることである。具体的にはG M Oステークホルダーとして関連する事業者などへのヒアリング調査、およびG M Oに対する消費者意識調査の国際比較を行った。

2 . 調査研究成果概要

(1) 関連するステークホルダーの構造

図1に、遺伝子組換え技術、G M Oなどに関連する情報の流れとステークホルダー（関係者）の構造を図式的にまとめた。

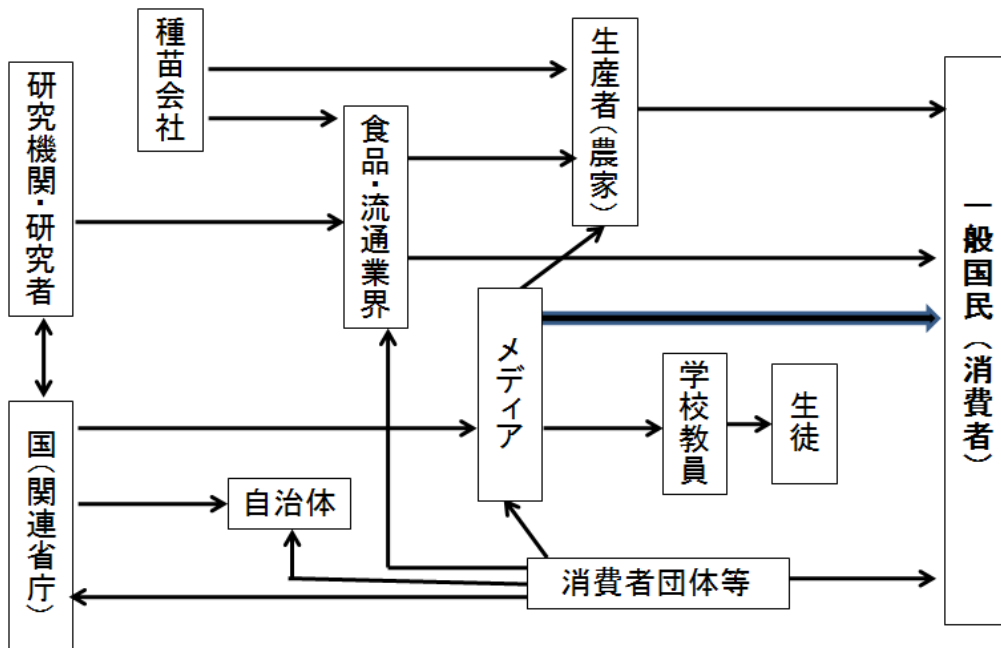
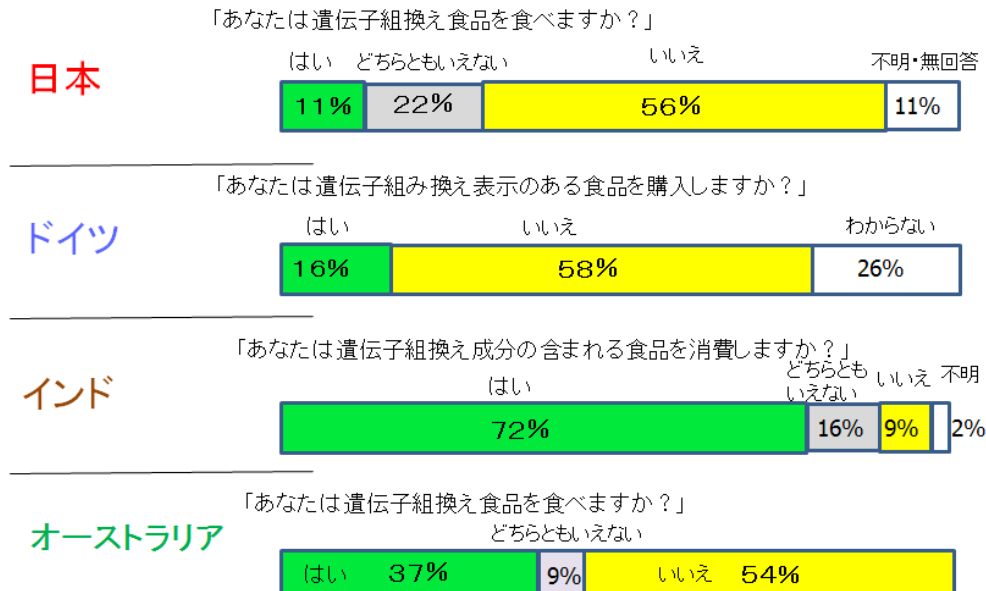


図1 G M Oなどに関連する情報の流れと関係者

(2) 内外の消費者意識調査の国際比較調査

G M O受容に関する日本および海外における消費者の態度・意識について、日本、ドイツ、インド、オーストラリアの4カ国の国際比較を行った。

遺伝子組換え食品に関する消費者の態度(4か国比較)



(出典) 日本:「遺伝子組換え食品に関する日本人の態度」(田中豊,2005)

ドイツ :Do European Consumers Buy GM Foods? (European Commission,2008)

インド : Emerging Markets for GM Foods: An Indian Perspective on Consumer Understanding and Willingness to Pay (INDIAN INSTITUTE OF MANAGEMENT,2007)

オーストラリア:Trends in Australian community attitudes regarding GM foods (Biotechnology Australia 2006)

1) 先進国・食料輸入国の消費者の態度

日本およびドイツにおいては、いずれも遺伝子組換え作物の国内商業栽培は行われていない。両国の消費者とも、遺伝子組換え食品の摂食に関しては、慎重な(ネガティブな)態度を示している。

2) 先進国・食料輸出国の消費者の態度

オーストラリアは有数の穀物生産国・輸出国である。遺伝子組換え食品に対する国民(消費者)の態度も、日本や英国などと比べると、かなりポジティブな態度を示す割合が高くなっている。さらに、ここ数年、深刻な干ばつ被害に見舞われ、安定的な食料供給を望む国民の声は大きい。 reality に、干ばつ前後で、国民の遺伝子組換え作物に対する態度はかなり変化している。

3) 新興開発国の消費者の態度

インドは、世界でも有数の遺伝子組換えワタの生産国である。安価な食品の安定的供給を望む国民が大多数を占める。大多数の国民は、遺伝子組換え食品に関してはかなり受容度が高い。ただし、アンケート実施対象は、同国で比較的高度な教育を受けた人に限られていることなどを考慮すると、大半の国民は、遺伝子組換え食品や作物バイオテクノロジーには大きな関心は抱いていないものと推測される。

4) 遺伝子組換え食品などの受容性の規定要因

消費者の態度は、その国の産業構造・文化などの影響も受けるが、受容性についての質問設定の仕方によって、回答結果も異なってくる。

その一例が、Biotechnology Australia が実施したアンケート結果に反映されている。すなわち、遺伝子組換え作物の受容性に関して、リスクだけでなくそのメリット(病害虫耐性など)を提示することにより、受容性が高まることがわかった。